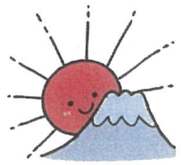
新年のつどいがありました。



つぼみ保育園では日本伝統のあそびや、楽器に親しでいくことを大切にしています。新年のつどいでは、職員によるお囃子や獅子舞を披露しています。

各クラスの装飾をホールに飾り、　全園児が揃って新年のご挨拶。にぎやかな雰囲気の中で行われました。地域の親子さんも7組参加して下さり、つぼみっ子たちと一緒に楽しんで頂きました。

年長児のコマ回し!!
練習の成果を披露しました。

小獅子に頭をパクッと噛んでもらいました。

お琴や篠笛の音色に耳を傾けていました。

発熱

発熱は、病気や体の異常を知らせるサインであると同時に、体内に侵入してきた細菌やウイルスと戦って免疫力を高め、体を守っている最中の状態でもあります。普段のお子さまの平熱をきちんと把握し、急な発熱にも慌てず対応しましょう。

発熱と症状

熱中症（日射病）
…（夏季）顔が赤く、息遣いが荒いのが特徴です。

中耳炎（急性）
…耳の痛みを伴い、耳から液体が出ていることもあります。

インフルエンザ・マイコプラズマ肺炎
…38℃以上の高熱が出て、咳がひどいと気管支炎や肺炎を併発しやすくなります。

お家でのケア

こまめに水分補給を行いましょう。熱の出始めで寒気を感じている時は温かくし、熱が上がり、手足が温かい時は薄着にします。汗をかいたら衣服を取り替えましょう。

こんな時はすぐ病院へ！

生後３ヵ月前後の月齢の低い乳児の発熱や、脱水症状、嘔吐、下痢、呼吸困難、顔色が悪いなどの症状が見られる時は早急に受診しましょう。

薬の飲ませ方

シロップ

薄めずにそのまま飲ませます。乳児は必要な量をスポイトやスプーンで取り、口の中に入れましょう。

粉薬

●水で溶く場合
少量の水か、ぬるま湯で薬を溶かします。飲ませる時はスプーンやスポイト、おちょこなどを使いましょう。

●直接口に入れる場合
開いた状態の口の中に直接粉薬を入れます。

●練る場合
小さな器に粉薬を入れ、数滴の水をたらし、だんご状

どの飲ませ方をした場合も薬を飲んだ後は水や湯冷ましを飲ませましょう。

食品に混ぜる時は

オレンジジュース、りんごジュース、スポーツドリンク、ヨーグルトなどの酸味がある物は薬によっては混ぜることができません。
食品に混ぜる場合、残してしまうこともあるので、薬を混ぜる時の量は少なめにしましょう。また、ミルク、おかゆなど、主食には混ぜないようにしましょう。味の変化で食べ物自体を嫌いになってしまう可能性があります。